

能登半島地震を振り返っての教訓をまとめた動画を製作

～「再液状化」の恐ろしさと「自助」の経済的な備えとして地震保険を学ぶ～

日本損害保険協会関東支部新潟損保会（会長：中村 知子・東京海上日動火災保険株式会社 新潟支店長）では、新潟県および新潟県損害保険代理業協会と連携して、能登半島地震の振り返りと教訓をテーマにして、地震が発生したときに、「地震保険」が生活の再建において必要であることを訴求する啓発動画『能登半島地震を振り返って ～巨大地震への備え～』を作成しました。

今般の能登半島地震では、新潟県は、新潟市西区など一部の地域において、地盤が液状化する損害が発生するなど、甚大な建物被害が発生しました（新潟県：住宅被害24,461棟、うち全壊109棟、半壊4,113棟、一部損壊20,225棟、床下浸水14棟）。このため、当協会関東支部では、新潟県・新潟市と連携して、10月に特別防災セミナーを企画し、大地震のリスクと備えについて、県民への周知啓発活動を行いました。

また、能登半島地震で得た教訓を風化させないために、先の防災セミナーを要約しつつ、今般の地震で液状化により家屋等の被害を受けた、被災者の方2名へのインタビューや新潟県防災局防災企画課長の特別インタビューなどを通じて、「自助」の経済的な備えとして、地震保険が役立つことを訴求する動画を作成し、以下のとおりYouTubeの動画配信を行っています。今後、動画の内容をまとめた啓発チラシ（7万枚）も作成し、関係各方面へ周知していく予定です。

動画 URL : <https://youtu.be/x214WQo2rNw>



<動画の概要>

■ 能登半島地震を振り返って ～巨大地震への備え～

第1部 「能登半島地震と液状化」(00:15～07:03)

新潟大学災害・復興科学研究所 所長・教授 卜部 厚志 氏

※ 2024年10月26日（土）開催の「特別防災セミナー」より抜粋

第2部 特別インタビュー

新潟県防災局防災企画課 課長 堀川 健一 氏 (07:04～11:06)

第3部 「経済的備えとしての地震保険」

日本損害保険協会 新潟損保会 会長 中村 知子 氏 (11:07～17:17)

※ 2024年10月26日（土）開催の「特別防災セミナー」より抜粋

第4部 能登半島地震 被災者へのインタビュー

新潟市西区在住 鈴木 一 氏 (17:18～20:10)

新潟市西区在住 山崎 忠一 氏 (20:11～23:18)

<第1部>

能登半島地震では、1964年の新潟地震で液状化が起きたのと同じ場所で、今般の能登半島地震で「再液状化」したことに着目し、今後起こる巨大地震は、新潟地震、能登半島地震で起きたのと同じ場所で再度、液状化することをリスクとして認識し、必要な備えを行うべきと新潟大学・ト部教授が指摘しています。

<第2部>

「防災に関する県民行動指針」や「新潟防災ナビ」「被災者に対する支援制度」など県の施策、「自助」としての災害への備えについて、新潟県防災企画課の堀川課長が説明しています。

<第3部>

地震保険の補償内容や加入方法、保険料のほか、地盤の液状化による損害認定について、中村損保会長が解説しています。

<第4部>

能登半島地震での被災の現状と地震保険にご加入されていたことが、被災後の生活再建に非常に役立ったことなど、事前の「経済的備えの大切さ」について、新潟市西区在住の被災者2名の方が切実な体験談を語っています。

当支部では、引き続き、地震等の自然災害に係る防災・減災に係る意識の向上および地震保険の普及・啓発に取り組んでまいります。

以 上